



うんていも先生の指導で上手に渡れます



元気な笑顔を見せてくれた、第4保育所の年長「さくら組」の園児たち



広い園庭で活発に体を動かす園児たち



跳び箱を上手に跳べるようになるまで、もう一息。がんばって!!



サッカーのゴール前で仲良く遊びます

心と体をつくる 保育所の取り組み

市ノ後地区を歩いていると、かわいいらしい声が聞こえてきました。町立第4保育所の園児たちが、広い園庭で保育士の先生方に見守られながら、跳び箱やうんていに挑戦していました。

「小学校で充実した生活を送るように、体と心をつくる保育を心がけています」と話すのは宮尾香純所

長(56)です。同所では2年前から、子どもたちの成長も見られます」と宮尾所長。園庭の園児たちはじつにいきいきとした表情をしています。年長のさくら組の園児たちが集まり、カメラに向かってとびきりの笑顔を向けてくれました。

市ノ後地区の東に広がる辻の城団地は、昭和46(1971)年に町の土地区画整理事業でできた地区です。十数年がかりで宅地造成が行われ、昭和57年に「辻の城」という住所名が生まれました。住所名の由来は周辺の上辻と下辻、市ノ後地区の合成地名です。「後」ではなく「城」とされたのは、木山腰尾城があつたことからくるものでしようか。

当時は市ノ後地区と同じ行政区でしたが、平成8(1996)年に「辻の城団地」という行政区が発足。その時

辻の城団地の誕生を知る人



数軒しか家が建っていないかった、昭和57年頃の辻の城団地(資料写真)